



コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館
(指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会)

TEL : 0220-55-2124
FAX : 0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



住民アンケートご協力ありがとうございました

7月末に各家庭にお届けした住民アンケートの回収作業を進めております。8月25日現在の回収率は39.5%で地域計画策定への関心の高さが窺えました。これから集計して詳細な分析を行った上で地域計画に反映させてまいります。なお、集計結果はコミュニティだよりで後日お知らせする予定です。

お忙しい中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。また、回収作業にご尽力いただいた皆さんや公民館や善王寺コミュニティセンターに直接持参していただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。

第26回吉田地区盆踊り大会 開催(8月16日)

送り盆恒例の盆踊り大会を4年ぶりに開催しました。台風7号の影響を避けるために吉田体育館を会場にして、約300人が参加した賑やかな盆踊り大会でした。

午後7時から長源寺住職に読経していただき、吉田地区先祖代々の供養を行い、厳かな雰囲気の中、関係者が代表して焼香し、来場の皆さんも一緒に合掌していただきました。

その後、民謡衣川会の皆さんのご協力を得て、生の演奏・歌唱で盆踊りが始まり、各行政区から参加した踊り手の皆さんによる輪踊りが始まり、先導の千葉栄子さん、主藤良子さん、すこやか部会の皆さんの踊りを見様見真似に楽しそうに踊っていました。米山東小学校児童の東っ子ソーランの演舞で会場は大いに盛り上がり、予定通り8時半に終了閉会しました。

会場の一角では東小学校 PTA 有志の皆さんがかき氷を販売、縁日コーナーでは区長さん方が売り子としての屋もびっくりの格好で大活躍してくれました。

協賛いただいた事業所や多くの皆様から多大なご祝儀を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。



歴史講座「温故知新」第2回学習会



7月31日(月)に受講生14名が集まり第2回学習会を開催しました。奈良時代の終わりに遠山村の蝦夷が舟に乗って川を下り、桃生城を焼き払ったという故事にならい、歴史講座事業として北上川を下る計画を立てていましたが、とよま北上川カップの会の皆さんの協力を得て実現できました。

登米町の北上川の船着き場から船3艘に分乗して柳津大橋付近まで舟行し、昭和7年に完成した脇谷閘門に入り、約20分で水位差がなくなり、閘門を抜けて旧北上川の船着き場で下船しました。雄大な北上川の流れを楽しみながら、昭和の土木遺産である施設・設備の説明を受けるなど、知的満足度100%の学習会でした。

裏面もご覧ください ➡

キッズサークル 夏休み期間中 事業盛り沢山！！

キッズサークルは、夏休み入ってから、3回学習会を開催しました。1回目は、7月28日に米山町域3公民館合同で仙台市科学館と仙台市天文台に行ってきました。科学館では通常展示のほか、特別展示の見学や、体験コーナーなど各グループに分かれて活動し、天文台ではプラネタリウムを鑑賞してきました。

2回目は8月8日に宮城県東部振興事務所 登米地域事務所 県民サービスセンター 消費生活相談員 門脇瑞貴氏と塚本邦江氏を講師に迎え「お金の使い方」についてゲームを通して学びました。その後、夏休みの宿題を各自で進めてもらいました。宿題のあとはリフレッシュ！！吉田体育館に移動してドッチビー大会。最後に加藤京子氏と衣川祐子氏に作っていただいたカレーライスをみんなでおいしくいただきました。3回おかわりした子もいました。

3回目は、8月18日に米山町域3公民館合同で志津川自然の家に行ってきました。洋上めぐりをする予定でしたが、台風7号の余波で海が荒れていて残念ながら船に乗ることはできませんでしたが、マイスプーン・フォーク作りや、レクリエーションを楽しんでいました。

夏休み中に2回、他の公民館のお友達と交流することができ、友達も増えたのではないのでしょうか。そして、子供たちの夏休みの楽しい思い出になっていればいいと思います。



平筒沼いこいの森見守り隊 登米市広報誌9月号裏表紙飾る



8月17日配布の登米市広報誌9月号の裏表紙「ときめき人」に、平筒沼いこいの森見守り隊の皆さんの活動が紹介されました。10年を超える期間にわたって地道な活動を行ってきた隊員14名全員がお揃いの赤いジャンパーを着用してニコリとほほ笑んだ写真も掲載されています。隊員を随時募集しておりますので、公民館までお問い合わせ願います。



コミュニティ運動会は10月15日

厳しい残暑が続いて熱中症の危険があることから、9月3日に予定していた運動会を10月15日（日）に延期しました。さわやかな秋晴れとなって楽しい一日になるよう期待して、多くの皆さんの参加をお待ちしております。



館長の戯言（ざれごと）No. 22 「スガリ」

参考文献：方言に生きる古語

平筒沼のハス駆除作業の休憩時間に今流行のスガリ除けのオニヤンマの模型の話で盛り上がっていたところで、「館長！スガリってなんでスガリなんだ」との質問。「確か、元々なんとか蜂のことをスガリと呼んでいて、蜂全部に使うようになったとか」とうろ覚えの答えだったので、改めて調べてみました。

「スガリ」の語源は「すがる」で漢字で蜾蠃と書きます。意味は蜂の一種の黒く細長い姿をしたジガバチのことで、万葉集に「すがるの如き腰細にとり飾らひ・・・」や「腰細のすがる乙女・・・」などと美人の代名詞として使われているそうです。奈良時代に都で使われていた「すがる」が、時を経て伝わっていく過程で形も意味も変化して「スガリ」となって、東北地方では「蜂」の意味で、九州では「蟻」の意味で使われているとのこと。同じ言葉が伝わり方でハチにもアリにもなるなんて面白いですね。

すがる
蜾蠃